

国有林は宝の山

国有林モニターの活動を振り返って

岩手県 後藤 裕子



についてイチから勉強し、私なりにその奥深さを知り、現在の日本における課題を目の当たりにしました。「国有林」という広大な森林についても関心を持ち続けていたところ、国有林モニターという制度を知り参加させていただくことができました。

そして、国有林モニターの活動が始まりました。毎月送付されてくる林野庁や森林管理局の冊子やモニター用のテーマ別資料などでは、森林が地形を保ち水を蓄え動植物の住処になりつつあるという、自然の中で果たしてくれている機能を事例を交えた説明で改めて確認することができました。また、木材としての利用はまだまだ開発の余地があり、利用を拡大していくことができることがわかりました。森林は我々に様々な恩恵をもたらしてくれているまさに「宝の山」なのだと感じました。

林業施策も学ぶことができました。例えば、今後利用期に入る人工林がますます増え主伐後の再造林も増加することによる苗に関する様々な研究や、林業従事者が高齢化し技術をもった人が不足していく背景のなかで人材育成の強化など、先を見据え

た施策を総合的に推進できるのは国でしかできないことだと思います。

また、見学会では、仙台市の海岸防災林復旧現場と、遠野市の低密度植栽試験地や鹿による森林被害地を訪問させていただきました。

「予算××億円」などと聞くだけでは「どれだけのことやっつるの??」と思うってしまうところですが、現場の見学をさせていただくと「なるほど...規模が大きい...」などと実感したり、現場で起こっている問題に懸命に取り組んでいる職員の方にお話を聞きながら「現在の科学の力をもって何とかならないのか...うーむ研究が必要なんだな」と肌身感じます。

とかく大きな組織では、大上段の目標から机上の論理と計算のみで現実離れた施策ができあがってしまうことが時としてあるようですが、現場の職員の皆さんが日々奮闘している中でもっている情報を、良い情報・悪い情報を含め、林業行政施策に反映していただきたいと思います。

国有林の管理や林業行政は一般会計化されて4年目ということですが、ますます「国民の森林」(＝国有林)の活用や日本全体の森林がよい方向に育つような施策、また、日本の林業が競争力を高められるような様々な施策を今まで同様打ち出しているだければ、日本の森林という「宝の山」が、世代を超えて資源として利用可能な形で引き継がれていくのではないのでしょうか。

東京で生活していたとき、国有林の存在は知りませんでした。そのイメージといえば(民有林になりえないような)奥深い山、国立公園の森林...という程度でした。

その後、宮城県に転居し子供が生まれるまで、木質バイオマスエネルギーを供給する仕事に携わっておりましたが、原料調達を担当として森林や林業